

オスプレイ 安部海岸に墜落

名護市広報「市民のひろば」では、平成28年12月13日のオスプレイ墜落事故を受け、事態の重大さに伴い、通常の紙面を一部変更しお伝えします。



現場に張られた規制線と機動隊



尾翼と見られる機体の一部と米兵



墜落により大破した機体



若宮防衛副大臣への抗議の様子



墜落現場近くで記者に囲まれる稲嶺市長

集落目の前の大惨事 機体は大破

平成28年12月13日(火)午後9時30分頃、名護市安部の海岸に米海兵隊普天間基地所属のMV-22オスプレイが墜落した。機体は大破し、搭乗員5人のうち2人が負傷した。沖縄防衛局は「空中給油訓練中に誤って切断したホースでプロペラの羽を損傷し飛行が不安定になったことが事故の原因」と説明。安部集落から約850m、市民の生活環境の中で起こったのはいけない恐ろしい事故が起きた。

事故直後、現場では救助に向かう米軍ヘリが低空で飛び交い、物々しい状況は深夜にまで及んだ。安部区の當山真寿美区長は「まさかこんなことになるとは。事故当時イザリ漁をしていた区民もいた。タイミングがずれていたら大変なことになった」と恐怖を語った。また、沖縄防衛局への要望として「海水の汚染調査とともにできるだけ早く海域制限を解除してほしい」と市に伝えた。

事故後の名護市の対応

12月13日(火)

23時7分 沖縄防衛局より「普天間飛行場所属のオスプレイが墜落した。時間や場所不明」との連絡

23時20分 市職員、安部区周辺を墜落地と予想し確認へ

12月14日(水)

0時25分 市職員、現場近くで住民に聞き取り

0時55分 市職員、双眼鏡で墜落した機体を確認

1時40分 市職員、墜落した機体を約15mの間に確認

7時18分 市長、現場確認(満潮時)

12時30分 市長、再度現場確認(干潮時)

14時30分 市長、沖縄防衛局長に対し抗議

12月15日(木)

10時00分 市議会軍事基地等対策特別委員会にて状況説明

12月16日(金)

9時00分 市長、防衛副大臣に対し抗議

10時00分 市議会本会議で状況説明

防衛省側からは事故の状況について説明があったものの、その内容については不明な点が多く、市では、その詳細について改めて説明を求めている。

今後も引き続き安部区民をはじめ市民の皆様の方々に安全な生活を確保するために取り組んでいく。

名広渉第 87 号
平成 28 年 12 月 16 日

防衛大臣 稲田 朋美 殿

名護市長 稲嶺 浩二 様

米海兵隊 MV-22 オスプレイの即時配備撤回並びに辺野古新基地建設の即時中止・撤回について(抗議)

平成 28 年 12 月 13 日午後 9 時 30 分頃、名護市安部集落前の海岸に米海兵隊 MV-22 オスプレイが墜落した。墜落現場は集落と目の先の先であり、事故当時イザリ漁をしていた市民もいた。この状況は、「一歩間違えば大惨事」という常套句を通り越し、日常的に市民の生命が危険に晒されている状況下で起きた許しがたい事故であり、その怒りはもはやことばで表すことはできない。

MV-22 オスプレイについては、これまで幾度となく事故を起こし、沖縄県民はその配備に強く抗議し続けてきた。それを徹頭徹尾受け入れず強行配備した結果がこの事故であり、日米両政府の責任は極めて重大で、我々市民の人身権を踏みにじる強行に他ならない。

そのような中において、日米両政府は事故現場に隣接する名護市辺野古に新基地建設を強行しようとしている。オスプレイの配備も計画されている新基地が建設されればこの危険性がさらに拡大することは火を見るよりも明らかである。自国の国民をここまで危険にさらしてまで基地建設を強行する異常な状態は日本中どこを探しても見つからず、市政を揺るがすものとして絶対に認められることはできない。

よって、以下のことを強く要求する。

1. 米海兵隊 MV-22 オスプレイの配備を直ちに撤回すること
2. 普天間飛行場を直ちに閉鎖すること
3. 辺野古新基地建設を直ちに中止・撤回すること

大臣あて抗議文書

問 広報渉外課 基地対策係 ☎ 53-1212(内線208)